

ウィルズバック大佐、 准将へ昇格



第18航空団司令官ケネス・ウィルズバック大佐が2009年8月17日付、大佐から准将へ昇格しました。先日ワシントンDCにおいて昇格のセレモニーが行われ、太平洋空軍司令官キャロル「ハウイー」チャンドラー大将与シンディ・ウィルズバック夫人が、ウィルズバック准将の両肩に、銀色に輝く星型の記章を留めました。ウィルズバック准将は、1985年フロリダ大学において空軍士官候補生課程を優秀な成績で修了し、3,600時間の飛行時間を持つ指揮官パイロットで、今年7月に第18航空団司令官に就任しました。



(写真提供：米空軍)

09 KADENA SPECIAL OLYMPICS 資金造成活動

"フィル・ダ・ブーツ"

第18航空団広報局



嘉手納スペシャルオリンピックのため、毎年、嘉手納基地消防隊の隊員たちが大々的な資金造成活動を行います。去った8月15日（土）及び16日（日）の丸二日間、気温32度、湿度60%という猛暑のなか、嘉手納基地消防隊員のみさんおよそ30名が、コミサリー（食料品売店）店頭で、消防隊の長靴*を片手に「スペシャルオリンピックのため寄付金をお願いしま〜す」と声を弾ませながら頑張りました。日ごろから人々の安全を守るため一生懸命汗を流す消防隊の皆さんの声に刺激され、スペシャルオリンピック活動に賛同する多くの人々の協力で、なんと、2日間で集まった寄付金は合計17,500ドル（およそ170万円）にのぼりました。

Part I

ウィルズバック大佐、准将へ昇格

嘉手納スペシャルオリンピック

資金造成活動とお知らせ

国際交流 ロックイン

長野県阿智村の子供達との交流会

文化の架け橋—Bridging Cultures

旧盆期間における嘉手納基地の様子

Part II

!!! 今月のSpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介して行くコーナーです。意外な発見があるかも...必見です!

"ツアーズ・フォア・トッツ" 同行取材記

米空軍創設について

UCIって何?

*募金活動のタイトル「Fill da Boot」は「ブーツ（長靴）を一杯にして!」という意味です。

(チップ・スタイツ氏撮影)



(米空軍レイ・ラモナー等軍曹撮影)



次ページへ続く



(チップ・スタイツ氏撮影)



(チップ・スタイツ氏撮影)



(チップ・スタイツ氏撮影)

Fill Da Boot!

Fill Da Boot!

Fill Da Boot!



(米空軍レイ・ラモニー等軍曹撮影)



(米空軍レイ・ラモニー等軍曹撮影)

2009年 嘉手納スペシャルオリンピックス

スポーツ競技、美術作品展示会への 参加申し込み受付開始！！

11月14日（土）に開催される嘉手納スペシャルオリンピックスの申し込み受付が9月1日より始まりました。沖縄市、嘉手納町、北谷町、そして在沖米軍基地に在住あるいは勤務する知的・身体障がいのある大人、その3市町の学校に在学する7歳以上の小中学生、さらに県立特別支援学校に在籍する学生を参加者の対象としています。申し込み受付期間は9月18日（金）までとなっています。昨年行われた大会では900名以上のアスリートがスポーツ競技に参加され、約360名の方が美術作品を出品されました。今大会でも多くのアスリート・アーティストのご参加を期待しています。



スポーツ競技は30メートル走、50メートル走、200メートル走、400メートルリレー、ソフトボール投げ、グランドゴルフ、フロアホッケー、車椅子50メートル走、車椅子ビーンバッグ投げ等、全部で17種目あり、色々な種目に参加できます。

美術作品展示会では、例年、個性豊かな作品（絵画、工作、陶芸、粘土作品など）が多数出品されます。個人作品はもちろん、グループで一つの大型作品を共同で創作し出品する子供達もいたり、毎回ユニークで楽しい作品を目にすることができます。美術作品展示会は嘉手納基地内だけでなく、基地の外でも開催されます。今年もうるま市にあるサンエー具志川メインシティー1階メインコートにて10月15日（木）から18日（日）まで同作品展示会が開催されます。できるだけ多くの方に才能溢れる作品の数々をご覧頂けることを願っています。多くの方のご来場をお待ちしています！

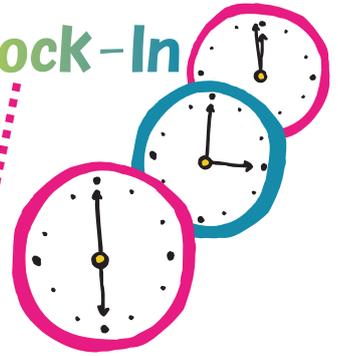
(写真全て、広報局 宮城パトリシア&川畑茜撮影)



International Lock-In

子供たちの国際交流

ロックイン



第18航空団広報局

夏休みも中盤に差し掛かった2009年8月8日(土)、北谷町内の小学校に通う子供たち20名が嘉手納基地内に招待されました。時間は午後5時、皆それぞれ手には大きなリュックサックやかばんを持っています。向かった先は、Youth Center(ユースセンター)。嘉手納基地内のアメリカ人の子供たち20名と共にLock-In(ロックイン)に参加するためです。Lock-Inというのは今年で7回目になる夏休みのイベントで、日本語に訳すると「(子供たちを)一定の場所に缶詰にする」といった風になります。ユースセンター内に「閉じ込められた」日米の子供たちは翌朝まで時間を一緒に過ごすこととなります。今年はどうなLock-Inになるのか、子供たちの目は期待で輝いています。



今回の交流会の数ヶ月前から、準備は始まっていました。参加予定の子供たちの中から数名のリーダーが選ばれ、どういう交流をしたいのか、子供たち同士で意見交換したり、ゲームの進め方を練習したり、子供たちの自主性が引き出せるようリーダー研修会を終えていました。その結果、事前に選ばれたリーダーの子供たちが中心となり、ユースセンター内でお互いの自己紹介と交流ゲームをスムーズにすすめることができました。自己紹介の後、子供たちは、近くのリュウキュウミドルスクールのプールへ移動し、飛び込み台から歓声をあげながらジャンプする子、真剣にクロールの練習をする子、鬼ごっこで水中を走り回る子、子供たちはみな楽しそうです。午後10時、ユースセンターに戻ってからの夕食時、子供たちは、おにぎり、スパゲッティー、から揚げなどを平らげていました。

その後はドッジボールの時間です。ユースセンター内の体育館を1時間ほど元気いっぱい走り回った子供たち、休む間もなく続いてはレクリエーションの時間です。レクルームにはビリヤード台、卓球台、各種のテレビゲーム、カードゲームなどがあり、子供たちは時間を忘れてはしゃいでいます。夜中の12時をとくに過ぎていますが、今夜は大人に「お菓子を片付けなさい」「早く寝なさい」などと言われることはありません。子供たちが一緒に楽しい時間を過ごすのが

Lock-Inの目的の1つなのです。英語のカラオケゲームで盛り上がっている女の子たちは、アメリカ人の子供たちにリードしてもらいながら、みんなでたくさん歌を一緒に歌っていました。カードゲームのルールも英語で身振り手振りを交えながら習い、勝ち負けに一喜一憂していました。

午前3時を過ぎた頃、子供たちのうち数人は布団や寝袋の敷いてある部屋へと移り休みましたが、ほとんどの子供たちは眠らずに朝を迎えていました。サポーターとして一緒に参加した大人たちも眠気を感じながらもほとんど完徹状態です。日が昇り空も明るくなった午前6時、朝食のメニューはマフィンとフルーツにミルクやオレンジジュースなどです。みな眠い目をこすりながらの朝食です。一晩中思いっきり遊んだり、おしゃべりしたりして楽しい時間を過ごした子供たちはみな疲れている様子ではありませんが、笑顔で「バイバイ」「さようなら」「ありがとう」と挨拶を交わし、ユースセンターを後にしました。

THANK YOU CARD

8月26日、Lock-Inに参加した子供たちの代表がユースセンターを再度訪問し、皆で感謝の気持ちを込めて作成したサンキューカードを届けました。「楽しかった」「英語で遊べてよかった」など、子供たちの感想と絵や写真で飾られたサンキューカードはユースセンターの壁に飾られることになりました。



ハイ、チーズ!



COMING FROM ACHIMURA!

長野県阿智村の子供達との交流会

8月10日、夏休みを利用して沖縄市へ訪ねてきた長野県阿智村の小学生13名が嘉手納基地のユースセンターの子供たちと交流しました。ユースセンター内には様々な遊びの器具があります。その中の一つ、4面卓球台では、阿智村の子供達がアメリカ人の子供達から身振り手振りでルールを覚えてもらい、早速ピン ポーンと試合開始。同じ部屋にはテレビゲームもあり、国は違えど皆ゲームが大好きの様です。それから、米国式ドッジボールでもりあがりました。阿智村の子供たちにとってはいつもと違うルールで戸惑いながらも、これも身振り手振りでルールが何となくわかってくると、夢中になってボールを追いかけていました。試合終了後、ユースセンターの子供たちに、阿智村特産の新鮮なとうもろこしをプレゼントされとてもうれしそうでした。

第18航空団広報局



BOKURA NO NATSUYASUMI
AT KADENA YOUTH CENTER

(写真提供：長野県阿智村村役場)



🇯🇵 🇺🇸 **BRIDGING CULTURES**

嘉手納基地内には、ボランティアとして活躍するたくさんの方達があります。今回は、基地内従業員として46年間嘉手納基地の医療クリニックで勤務し、定年退職後も様々なボランティア活動を通して日米の文化の架け橋となっている島袋栄一郎さんを紹介しします。

ボランティア 島袋 栄一郎さん

Q1 ボランティアとしての活動内容を教えてくださいませんか？

嘉手納基地内でのボランティア活動はいくつかあります。もう10年近く続けているのが医療クリニックのインフォメーション・デスクでの案内係です。毎週水曜日の午前中、患者さんに医療施設の案内を行っています。また、日本の医療機関への問い合わせや米国人の患者が日本の病院に行く際に通訳として付き添ったりすることもあります。最近始めた活動では、エアマン&ファミリーレディネスセンターでの

サンシン教師があります。毎週木曜日の夕方米国人にサンシンとウチナー古典音楽を教えています。この他にも、嘉手納スペシャルオリンピックスや沖縄マラソン等のイベントで基地内の医療テントで通訳ボランティアをしています。

(写真全て、第18航空団広報局：宮城/パトリシア撮影)

Q2 どのような経緯で現在のボランティア活動を始めたのですか？

私は、1996年まで嘉手納基地の医療クリニックで勤めていました。クリニックでの勤務が長く、私が地元医療機関との交流が深かったこともあり、定年退職後も時々地元医療機関との調整等で医療群のスタッフや司令官と連絡を取り合っていました。退職して3年後の1999年に当時の第18医療群司令官にクリニックでのボランティアを頼まれ、週一回ならと引き受けました。このことをきっかけに、日本人が大勢参加する基地内のイベントで、嘉手納スペシャルオリンピックスや嘉手納基地内を通過する沖縄マラソン等の救護テントで通訳ボランティアとして毎年手伝っています。



BOKUTACHI-NO-SENSEI!

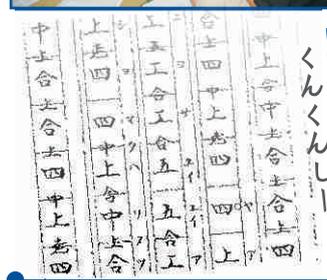


サンシン教師になった経緯は、エアマン&ファミリーレディネスセンターで日本文化コーディネーターを勤める下條綾乃さんが、私の友人の石川栄子さん（前任の文化コーディネーター）に「サンシン教師を探している」と相談したことから、石川さんが私を下條さんへ紹介したのがきっかけでした。最初は迷いもありましたが、私がサンシンを始めるきっかけとなったのが米空軍関係者だったこともあり、引き受けることにしました。



私は、50代でサンシンを始めました。当時勤めていた医療クリニックにいたある米空軍医師と奥様がサンシン教室に通うことになり、私が通訳としてサンシン教室に付いていったのがきっかけでした。二人に古典音楽の歴史や演奏方法を訳するうちに私自身も興味がわいてきて、また、ご夫婦の目覚しい練習成果を目の当たりにし、私もレッスンに加わりました。ご夫婦がアメリカへ帰国した後も私はレッスンを続け、1992年に教師免許を取得することができました。

次ページへ続く



1. YA ASADOYANU KUYAMANIYO "SA-YOI YOI"
ANCHURASA MARIBASHI MATA
"HA-RINU TSUNDARA KANUSHAMAYO"
2. YA IMISHAKARA AFARIMARIBASHI "SA-YOI YOI"
KUYUSHA KARA SHIRUSASU DEBASHI
"HA-RINU TSUNDARA KANUSHAMAYO"

Q3 これらのボランティア活動を通して、印象に残っている出来事がありますか？

クリニックでの活動が第18航空団司令官に認められ、2000年に医療クリニック内にある会議室を私の名前の「島」をとって「シマ・ルーム」と命名していただいたことです。この名称にするために当時の在日米軍司令官のヘスター中將や太平洋空軍司令官のギャブル大将の承認が必要だと聞き、感無量でした。当時の司令官たちに感謝しています。

また、米国人にサンシンを教えていて感じることは彼らが、沖縄の文化に興味を持ち、学ぼうとする姿勢がすばらしいと思います。20名ほどいる生徒の中には、沖縄に着任して2週間ほどでレッスンに加わった夫婦がいます。サンシン教室を初めてまだ10ヶ月ですが、生徒たちはこの短期間の間に工工四（楽譜）を覚え、チンダミも合わせる（音合わせ）ができるようになりました。開始当初から参加している生徒は、もう7曲もマスターしています。彼らの努力には関心します。



Q4 基地内のボランティア活動で大変なことがありましたら教えてください。

サンシン教室の教材作りが最も大変です。サンシンは曲が弾けるだけでなく、歌を歌うことができないといけません。そのため、米国人でも歌えるよう歌詞をローマ字で表記します。その上、歌詞の内容が彼らにも理解できるように英訳をします。ウチナグチの表現を英語に訳すのに苦労します。ウチナグチを英訳した辞書が無いので時間がかかります。ウチナグチの意味をきちんと理解していないと出来ません。大変ですが、楽しんでやっています。現在までに6曲を教えています。すべて私が英訳しました。

Q5 なぜボランティアを続けるのですか？

第一に健康維持とボケ防止です。人間の脳細胞は二十才をピークに、それ以降は方っておくと一日二十万単位で減っていくと言われている。脳細胞の減少を食い止めるには、日頃から意識して脳を活性化させる必要がある。様々なボランティア活動を通して勉強する（脳を活性化させる）機会を与えてもらっているし、色々な人に出会えるので楽しい。

下條綾乃さん（エアマン&ファミリーレディネスセンター日本文化コーディネーター）から頂いたコメント

島さんにこちらのセンターでお手伝いしていただくようになってから、私自身を含め、アメリカ人、日本人の参加者全員が沢山の事を勉強させてもらっています。それこそ島さんは沖縄が誇れる、生きた遺産です。特に私達世代がわからない戦前のお話、戦後直後の沖縄、そして嘉手納基地の状況、アメリカ人と日本人の文化交流、その当時の基地内外での出来事や事件等、それらは本や新聞には載っていない、リアルなオキナフの過去の現状を私達に教えてください。島さんは、その大変な時代を生き抜いたという数々のストーリーを、島節とも言える、ユーモアあふれる口調で楽しくわかりやすく教えてください。クラス以外の日にも、島さんの外で教えるクラスを見学に連れて行ってもらったり、大きな古典芸能の舞台を見学したり、サンシンの部品を買いに連れて行ってもらったりしています。クラスに参加する誰もが島さんのことが本当に大好きです。

編集後記

嘉手納基地内でのボランティア以外にも島袋さんはうるま市内の公民館でのサンシン教室、うるま市環境保全委員、スペシャルオリンピックス日本・沖縄に所属するのアスリートにゴルフを指導する等、様々な分野で活動されているそうです。78歳になる島袋さんですが、見かけも実年齢より若く、活動的で、いつお会いしてもいきいきと輝いています。「サンシンはもう私の生活に欠かすことの出来ないライフワークとなっています」と話す島袋さん、サンシンで心のリフレッシュをし、もう一つの趣味であるゴルフで体をリフレッシュしているそうです。

らゆねなさけー、
まーらぬふぁにん ららまりーん

旧盆期間における 嘉手納基地の様子

第18航空団広報局

UNKE- NAKANHI U-KUI



旧盆期間の三日間は、家族 親族が仏壇のある家に集まり先祖の霊を迎え時間を共に過ごし、近況報告や皆の健康や幸福を祈願をしたりするなど、地元社会にとっての重要な文化行事となっています。嘉手納基地では、その特別に意義ある日を尊重し、航空機騒音軽減対策の一環として、飛行機の活動を最小限に抑えています。特に積極的な取り組みとして、戦闘機の訓練飛行を行っていません。また米国公休日が休日の日本人従業員も、この日ばかりは有給休暇を取る方も多いようです。



OBON

